

# 飼料カブの品種は何を選ぶべきか

## (飼料カブの品種比較試験、昭和 34 年の成績から)

酪農試飼料作物研究室

冬期間の乳牛飼料として乾草、サイレージと共に重要な飼料カブは、最近水稻の早期あとに或は畑地で飼料作物の多毛作付けの一員として広く栽培されております。

しかし多収穫を目的とした飼料栽培の立場から或は給与の立場から検討してみますと、色々の問題があるようです。例えば播種期、品種の選択、施肥、収穫時期、収穫あとの土地の利用等です。

これらの点につきましては数年前から少しずつ取りあげておりますが、本稿では如何なる品種を栽培すべきか、数多い品種の紹介を昨年の試験成績から試みたいと思います。

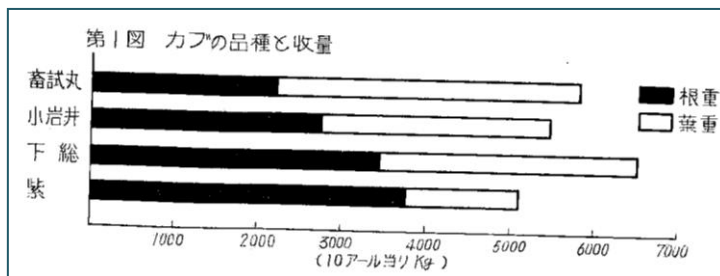
家畜の飼料として栽培されているカブは、必ずしも飼料用のものと限らず聖護院カブ等の蔬菜用のもの、或は飼料用と蔬菜用の紫カブ等の中間的なものです。

そこでまず最初に関東東山農試草地部の試験成績から各種カブ類の分類、特性を第1表で御覧に入れてから本論に入りたいと思います。

程度、腐敗の程度等を調査しそれぞれの品種の優劣を検討したわけです。もっともこの2、3年継続して最終的な決定を行うことにしておりますので、此の報告は中間的なものであることを御了承願います。

津山地方での播種適期は8月の末から9月上旬となっておりますので此の時期に畦巾 60 糎、株間 20 糎に点播し本葉 3 枚で間引を行い 1 本立てとしました。施用しました肥料は基肥として、厩肥 1、800 kg、硫酸 20 kg、過石 30 kg、塩加 15 kg、追肥として硫酸を播種後 60 日に 15 kg (何れも 10 アール当) 施用しました。この様にして生育日数 95 日の 12 月 1 日に全品種共に抜取り調査を行いました。

まず 10 アール当りの収量についてみましょう。第



第 1 表 カ ブ の 特 性

型	代 表 的 品 種	葉 部				根 部					早晩性	所 属 する 品 種	
		色	肉質の有無	毛茸の有無	繁茂の強弱	形状	地上部皮色	地下部皮色	肉色	乾物%			成熟日数
飼料型	下総カブ	緑	有	有	強	球	淡緑	白	白	8.8	約 90	中生	畜試丸カブ, 小岩井カブ, 茨城(友部)カブ
中間型	紫カブ	帯紫緑	少	少	弱	長球	紫	白	白	8.2	80	中の早	
蔬菜型	天王寺カブ	淡緑	ナシ	ナシ	中	やや扁球	淡緑	白	白	6.9	75	早生	

飼料型の共通した特性は葉部の繁茂がきわめて旺盛であり、水分が比較的少なく肉質硬く耐寒性が強いが根の成熟日数が約 90 日を要するとされ、中間型は葉の繁茂が最も少ないが根部の生育収量は飼育型と略同様であり貯蔵力は蔬菜型よりも優れています。

さて私共が行いました試験は飼料型カブとして畜試丸カブ、小岩井カブ、下総カブ、中間型カブとして紫カブを使用して茎葉部、根部の収量、す入りの

1 図であらわしておりますが根部の収量は紫カブが最もすぐれて下総、小岩井、畜試丸カブの順で少なくなっています。しかし此の紫カブ、下総カブ、小岩井カブ間の収量差は統計的に有意ではありませんからほとんど同じと考えてよいと思います。

葉部の収量についてみますと根部収量の最も少ない畜試丸カブが最高で紫カブが最少となっております。もっとも畜試丸カブと下総カブの間には有意な

## 岡山畜産便り 1960.08

差がみとめられませんでしたがほとんど同一と考えてよいと思います。

以上のことからカブの栽培の目的を葉部に比重をかけるのでしたら畜試丸カブ、下総カブが優れておりますし、根部の利用が目的であれば紫カブ、下総カブ等が優れております。

次に地上、地下部の合計収量についてみますと下総カブが最もすぐれ次いで畜試丸カブですが両者の収穫差は著明ではありません。

次に貯蔵力に関係のあります、す入りと腐敗点についての結果をみますと第2図のようでした。

す入りの少ない品種は小岩井、畜試丸カブで紫カブはす入りの程度はともかくとして約9割の個体にすが入っておりました。また収穫時の腐敗した根部は小岩井カブが最も多くて他はほぼ同一でした。

そこです入り、腐敗のない健全個体の多いカブの品種を探しますと畜試丸カブが非常にすぐれ紫カブは最も劣っておりました。

さて、それでは一体どの品種がすぐれているのか、何を作れば最も安全且つ最高収量が得られるのか、むすびの一幕と相成るわけですが、目下の処結論が出そうにありません。

ただ紫カブは余りおすすめ出来る品種ではなさそうです。下総、小岩井、畜試丸カブ3種は大同小異の範囲にあります。もっとも此の3種のカブはその起源が同じのようであつて明治30年頃宮内省下総御料牧場の場長新山氏がフランスから持ち帰った原種が下総の名を附して下総カブとなり、畜試丸カブ、小岩井カブは、下総カブの種子が旧畜産試験場に、また小岩井牧場に導入されて今日斯様な名が附されたのだらうといわれています。ここ2、3年の試験によってあらゆる面からの結論を出したいと思っています。

(附) 此の試験は国費助成により行った試験の一部で、当試験の担当者は酪農試、小谷技師、吉田技師補、頼実技術補助員、畜産課石原技師等である

なお試験調査の農家向普及版の発表スタイルはどのようにあるべきか色々と考えたあげく以上の様なダラダラの駄文と相成った。

ただ、数字を並べた硬いものであることには警戒

すべきであろう。読者の御意見御批判を得たい。

(三秋記)

